

【海外渡航者（赴任者、家族を含む）のためのワクチン

欧米を中心に赴任される方へ

海外への赴任が決まってお忙しいことと思います。しかし赴任に際し早くから準備しなければならないのが、予防接種です。予防接種に対する考え方は国によって大きく異なるため、日本の予防接種に対する考え方が通用しないことや日本の予防接種が国際基準に達していないため注意が必要です。以下のことに気をつけ計画を立てるようにして下さい。

1 予防接種に関する基本的考え方

北アメリカ、西ヨーロッパ、オーストラリアなどの先進国では予防接種はその地域で流行している病気に対して予防をおこなうだけでなく、国民がすべて接種していれば感染症から国を守れるという集団感染予防の考え方があります。そのため子どもに対する予防注射の種類は多く、日本では一般的でない接種もあります。成人に対してはそれほど厳しくはありませんがお子様を連れていかれる場合、規定の予防接種が終了していないと学校に入学できない場合もあるため注意してください。

2 具体的には

相手国の感染状況や予防接種の状況を前任者やインターネットを通じて調べてください。

インターネットでは下記のアドレスなどを参照下さい。

海外赴任者と子供への感染症及び予防接種情報	http://www.forth.go.jp
在外公館医務官情報	http://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/medi/
海外勤務健康管理センター	http://www.johac.rofuku.go.jp/
アメリカ予防接種プログラム	http://www.cdc.gov/nip/recs/child-schedule.htm

母子手帳、学校の記録（二種混合、日本脳炎など）を確認した上で、それを持参し医療機関を受診してください。事前に医療機関に連絡し、「海外渡航における予防接種の相談で受診したい」と告げて受診日時を決めて下さい。その際、以下の事を必ずお伝えください。

- ①渡航先の国名
- ②出国予定日
- ③渡航日数（年数）

スケジュールを決めるには30分程度かかります。最初の相談日は接種のスケジュールのみを決める程度とお考え下さい。

3 同時接種について

出国予定日まで日数がない場合（6ヵ月未満の場合）などは数種類の予防接種を同時に行う、という方法があります。ワクチンは混ぜることができないので、同時に数カ所かに接種（手や足が可能で4種類程度まで）することが可能です。同時接種によって副反応が強くなることはありませんが、注射の痛みにより気分が悪くなるかたがおられます。同時接種は海外渡航用のワクチンをされている施設では頻繁に行われているものの、最終的にはご本人（保護者）の考え方にお任せします。

4 証明書（英文含む）に関しては随時発行しますが、即時発行はできません。

5 主な予防接種

・破傷風

世界中の土壌に常在している菌が原因で怪我などで感染する。日本国内でも感染例はある。昭和50年以前生まれの人は、予防接種されていない方も多い。25歳までの方で規定通り接種できていれば、1回の追加接種でよいが、25歳以上の方は効果がなくなっている可能性があり、3回の接種（1回目から2-4週後に2回目の接種を行い、その半年から1年後に3回目の接種）が望ましい。

・A型肝炎

生水・生野菜・加熱不十分な食材（特に魚介類）で感染。欧米でも一部の地域では必要である。16歳未満の子どもにはワクチンの適応が日本では得られていないため、保護者の同意の上、希望により接種となる。（年少児で感染しても軽症で済むといわれているが欧米では2歳前後から接種している）2-4週間隔で2回接種し、半年から1年後に3回目を追加接種すれば5-10年有効とされる。

・B型肝炎

血液・性行為を介して感染する。国際的には小児期に全員接種している国が多い。1カ月間隔で2回接種し、半年から1年後に1回追加接種すれば5-10年間は有効とされる。ただし免疫のつきにくい人がいるので、接種後に抗体検査で確認することが望ましい。

・麻疹（はしか）

先進国では麻疹は2回接種を行っており、ほぼ制圧されつつある。日本は長らく1回接種であったため麻疹流行が散発するという先進国ではめずらしい国で、他の先進国からは「日本人が麻疹を持ち込む」、として恐れられている。日本でも平成18年から2回接種となったが、生涯の間で麻疹ワクチンを1度しか接種していない場合は2度目の接種を行い出国することが望ましい。

・ムンプス（おたふく風邪）

おたふく風邪については欧米ではMMRワクチン（麻疹・風疹・おたふく風邪混合ワクチン）として定期接種（国の方針として接種＝無料）であることが多い。2回接種であることも多く、ほぼ制圧されつつある。罹ったことがなく、予防接種を行っていない場合や予防接種をおこなっていても効果が低下（抗体が低下＝血液検査をすると判明する）している場合、おたふく風邪単独のワクチンを追加接種していくことが望ましい。

・水痘（水ぼうそう）

水ぼうそうについては欧米では定期接種としている国も多くなり2回接種することもある。罹ったことがなく、予防接種を行っていない場合や予防接種をおこなっていても効果が低下（抗体が低下＝血液検査をすると判明する）している場合は追加接種していくことが望ましい。